

事例 9

タイトル：調理に夢中になり、調理以外のことが目に入らないAさん

・ <事例の状況>

Aさんは、ホームの調理に毎日のように入る。しかし、見守りがないと、冷蔵庫の食材を勝手に出しては手洗い不十分な状態で食品に触ったり、日常的につまみ食いすることも多い。休憩はほとんど取らず、休憩を取ってもらおうとすると、「もういい、家に帰る。」と不機嫌になる。他入居者が調理を手伝っていると、「私がするから。」と、仕事を取り上げてしまう。また、食材の在庫を気にかけて、朝から就寝時まで、「足りない、足りない。」と、かつての調理主任時代と思い違いをしているのか、毎日、頻回に冷蔵庫を開けて確認し、「注文をしないと。」と、調理主任時代の注文先に電話を掛けようとする。

【この事例で課題と感じている点】

調理と休憩のバランスが取れず調理に入りきりになり、十分な休憩が取れていない為、下肢の浮腫や疲労感等の悪化が心配。転倒事故。「主任だから、私の責任だから。」と責任感が強く、他入居者に指示的口調で話す為、グループホームでの和が保てなくなるのではないか。

・ <キーワード>

下肢の浮腫がみられる。 他人を威圧する態度がみられる。 転倒。 調理に熱中しすぎる。

・ <事例概要>

【年 齢】 80代前半

【性 別】 女性

【職 歴】 事務員 調理師

【家族構成】 一人暮らし

【認知機能】 HDS - R16点

【要介護状態区分】 要介護度3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 脳梗塞 腰痛症

【現 病】 アルツハイマー型認知症

【服 用 薬】 認知症薬（アリセプト）・血流改善剤（カルナクリン錠・サアミオン錠）・
頻尿改善剤（ベシケア錠）・安定剤（セディール錠）

【コミュニケーション能力】 自分の想いを人に伝え、人の言葉を理解する事が出来るが、作話が多い。

【性格・気質】 頑固。 神経質。 飽きっぽい。

【A D L】 食事、排泄は自立。 入浴、着脱に関しては一部介助。

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 料理

【生活歴】 公務員として勤めていた父が厳格な一家の6人兄弟の末っ子として生まれる。幼

少期に父親を亡くす。当時としては、花嫁道具がそろえられた程の裕福な家庭で、学校卒業ののち、地元で勤務する。数年で結婚後、終戦を機に夫の実家に移り住み、姑の世話や子育てをしながら、農家の嫁として仕事をする。子供達が離れてからは、調理師の免許を取得し、調理師として勤務。勤務先では調理主任を任されていた。20年ほど前に長女を、その数年後夫を亡くす。3年程前より認知症状が出現、アルツハイマー型認知症と診断された以降も、独居生活を送っていたが、自分で起き上がれなくなってからは自信をなくし、生活のほとんどの場面で援助を求めるようになり、介助者(娘)の仕事との両立が困難になる。同年、グループホームに入居し、現在に至る。

【人間関係】 責任感が強く、自分にも他人にも厳しい。三女が身近な世話をしているが、次女を一番頼りにしている。

【本人の意向】 これからも、世の為、人の為に元気で仕事(調理)を続けたい。

【事例の発生場所】 食堂、台所(グループホーム)